

# 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に伴う

## 地区懇談会実施報告書

### 【わかりやすい版】

## I 調査概要

### 1. 調査の目的

本調査は、令和5年度に「第5期地域福祉計画」及び西東京市社会福祉協議会が策定する「第五次地域福祉活動計画」を策定するに当たり、地域で生活・活動する市民目線での、地域の現状や課題、解決のアイデア等を話し合っていたいただくことを目的として実施しました。

### 2. 参加者

公募市民、ほっとネット推進員、民生委員・児童委員、地域包括支援センター、ささえあい訪問協力員、ふれあいのまちづくり、自治会・町内会、地域で活動する団体に所属する方 など

### 3. 参加状況

地区	対象地域	回	日付	時間	会場	参加者数
西部	西原町・緑町・谷戸町・芝久保町・ひばりが丘	第1回	1/22(日)	14:00～	緑町コミュニティセンター (緑町 1-5-1)	23人
		第2回	2/5(日)	16:00		23人
北東部	富士町・中町・東町・ひばりが丘北・栄町・北町・下保谷	第1回	1/22(日)	10:00～	保谷庁舎(防災・保谷保健福祉総合センター) (中町 1-5-1)	23人
		第2回	2/5(日)	12:00		23人
中部	田無町・北原町・保谷町・泉町・住吉町	第1回	1/21(土)	10:00～	田無総合福祉センター (田無町 5-5-12)	25人
		第2回	2/4(土)	12:00		24人
南部	南町・向台町・新町・柳沢・東伏見	第1回	1/21(土)	14:00～	イングビル (南町 5-6-18)	25人
		第2回	2/4(土)	16:00		21人
全地区合同発表会		第3回	2/19(日)	10:00～ 12:00	田無庁舎 (南町 5-6-13)	50人



## 4. 実施方法

第1・2回は地区ごとに、発表会は4地区合同で実施しました。

実施内容	
第1回	<p><b>地域での困りごと・よくしたいことの洗い出し</b></p> <p>現在感じる課題やこれまでの活動を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・全体で、簡易ワールドカフェにて意見出し</li> <li>・グループごとに、課題をフセンに書いて、分類ごとに整理し、第2回の実施内容につなげる</li> </ul>
第2回	<p><b>解決アイデアの検討</b></p> <p>好事例の共有や課題解決のアイデアを話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な事例の共有</li> <li>・グループごとに、解決アイデアを出し、フセンを第1回の課題分類ごとに振り分ける</li> <li>・グループごとに、話し合った内容を発表し、全体発表会での発表内容を決める</li> </ul>
発表会	<p><b>発表</b></p> <p>他地域の状況を知り、今後の活動のヒントを得る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1・2回の内容を簡潔にまとめ、発表</li> <li>・講評</li> </ul>

### ■地区懇談会募集チラシ

**地区懇談会**

**地域での暮らしを考える  
ワークショップに  
参加しませんか？**

**対象者**  
市内在住・在勤・  
在学の方

西東京市では、「誰もが暮らしやすい地域づくり」を進めています。

身近な地域の方と  
いい距離感で  
お付き合いできないかな？

災害があったとき、  
地域とのつながりがあった方が  
良いのかな？

何か自分の趣味や特技を  
地域活動に  
活かさないかな？

などなど、普段生活しているお住まいの地域について考えるイベントです。  
当日は、地域で暮らしていて感じる困りごとや、どんなことがあったら良そうかなどを話します。  
ぜひ気軽にご参加ください。

地区	対象地域	回	日付	時間	会場	部屋
西部	西原町・緑町・谷戸町・ 久保町・ひばりが丘	第1回	1/22 (日)	14:00～	緑町コミュニティセンター (緑町1-5-1)	第1第2集会所
		第2回	2/5 (日)	16:00～		
北東部	富士町・中町・栗町・ ひばりが丘北・栗町・ 北町・下保谷	第1回	1/22 (日)	10:00～	保谷庁舎(防災・保健 福祉福祉総合センター) (中町1-5-1)	6階第1会議室
		第2回	2/5 (日)	12:00～		
中部	田無町・北原町・ 保谷町・栗町・住吉町	第1回	1/21 (土)	10:00～	田無総合福祉センター (田無町5-5-12)	3階第1会議室
		第2回	2/4 (土)	12:00～		
南部	南町・向台町・新町・ 南沢・栗沢見	第1回	1/21 (土)	14:00～	インパビル (南町5-6-18)	3階第3第4会議室
		第2回	2/4 (土)	16:00～		

※第1回・第2回は連続したプログラムとなります。  
※別途、4地区合同の発表会を開催します。

**お申し込み・お問合せは、  
下記までお願いいたします。**

西東京市役所 健康福祉部 地域共生課  
TEL: 042-420-2807(直通)  
FAX: 042-420-2896  
メール: fukushisoukou@city.nishitokyo.lg.jp

※電話、FAX、メールでお申し込みの際は、「地区懇談会の件」とお伝え下さい。

### ■地区懇談会発表会募集チラシ

**地区懇談会発表会のお知らせ**

～地域での暮らしを考えるワークショップ～



各地区で行った懇談会の発表会を行います！  
懇談会に参加されていない方も、是非ご参加ください。

★内容  
「誰もが暮らしやすい地域づくり」を進めるため、市内を西部、北東部、中部、南部の4つの地区に分け、それぞれの地区で現状や解決アイデアを話し合う懇談会(ワークショップ)を実施してきました。  
このたびは2回の結果がまとまりましたので、全地区合同の発表会を行います。

★対象者(事前申し込み制)  
市内在住・在勤・在学の方  
※懇談会に参加されていなくても、発表会の参加は可能です。  
※会場の定員により、ご参加いただけない場合がございます。

★事前申し込み方法  
2月6日(月)午前9時から同月13日(月)午後5時までに、西東京市健康福祉部地域共生課へ電話等でお申し込みください。

★日時・場所  
開催日: 令和5年2月19日(日)  
時間: 10:00～12:00  
場所: 田無庁舎 502・503 会議室  
(南町五丁目6番13号)

お申し込み・お問合せは、以下までお願いいたします。  
西東京市 健康福祉部 地域共生課  
TEL: 042-420-2807(直通) 電話: 042-420-2807(直通)  
FAX: 042-420-2896 FAX: 042-420-2896  
メール: fukushisoukou@city.nishitokyo.lg.jp メール: fukushisoukou@city.nishitokyo.lg.jp

※電話、FAX、メールでお申し込みの際は、「地区懇談会の件」とお伝え下さい。

第1回から発表会までの実施方法の詳細については以下のとおりです。

## 【第1回】

### (1) 意見のメモ

はじめに、「困りごと・よくしたいことメモシート」に、記入しました。



### (2) 地域での困りごと・よくしたいことの洗い出し

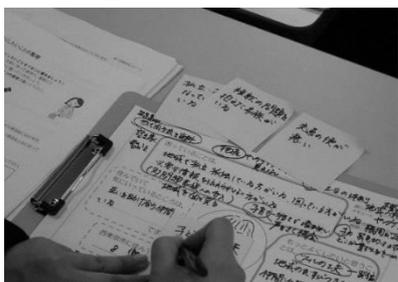


「困りごと・よくしたいことメモシート」を参考に、3～4人の小グループで、席替えをしながらたくさん話し合いました(ワールドカフェ)。話し合ったテーマは、『普段生活をしている中、地域活動をしている中で、困っていること・もっとよくしたいと思うこと』です。

### (3) 困りごと・よくしたいことの整理

(2)の話し合いを踏まえ、印象に残ったり、重要だと思った『困りごと・よくしたいこと』をフセンに書き出しました。

その後、模造紙に貼ってある5年前の懇談会で挙げられた課題に沿って、フセンを分類しました。



### (4) 5年前からの変化を考える

整理したフセンを見ながら、『5年前からの変化』を話し合いました。

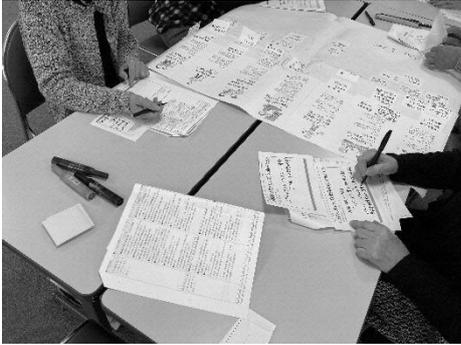
解決が進んでいないものには赤のシール、新たに出てきたものには青のシールをフセンまたはカテゴリに貼り、変化を可視化しました。



## 【第2回】

### (1) 解決のヒント探し

はじめに、第1回で出た『困りごと・よくしたいこと』の解決につながるような取組を、「ヒントシート」に記入しました。



その後、他のグループの「ヒントシート」も見に行きました(ギャラリーウォーク)。



### (2) 解決のアイデア出し

他の方の「ヒントシート」も参考にしながら、地域の中で取り組んでいけそうな『解決のアイデア』をフセンに記入しました。



第1回の模造紙を見ながら、対応する『解決アイデア』のフセンを分類し、貼りました。

その後、特に地域で取り入れていきたい『解決アイデア』について、緑のシールを貼りました。



### (3) 発表会準備

第1・2回の模造紙の内容について、「発表準備シート」に簡潔にまとめました。

各グループにて、「発表準備シート」を基に、模造紙の内容について発表し、全体発表会に向けた準備を行いました。



## 【発表会】

### (1) 各地区からの発表

各地区の代表者から発表を行いました。



### (2) 講評

西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会副委員長である法政大学現代福祉学部伊藤教授からの講評。



## II 地区ごとの結果

\* 発表会内容の要約

### 1. 西部地区

#### 西部地区の重要な困りごと・良くしたいこと

①世代間の交流、交流の場が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 交流の場や機会が少ないことがいろいろなことに派生している</li> <li>• 世代間交流が無くなっている</li> </ul>
②ボランティアの担い手が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 若者や親世代、特に定年後の男性が活躍できていない</li> </ul>
③情報が届きにくい	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特に高齢者が、スマートフォンの使い方が分からず情報が届かない。現在の市の取組だけでは解決が難しい /</li> <li>• 相談の内容が複雑化しているが、ホットライン（相談窓口）が少ない</li> </ul>
④空き家が増えている	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 空き家利用の問題</li> </ul>

#### ●解決アイデア

●…解決アイデア

★…重点的に取り組みたい解決アイデア を示しています。

#### ①世代間の交流、交流の場が少ない

★人と知り合える、世代を超えてつながりを生み出す場づくり

例えば…

ボードゲーム、ゲーム大会、立ち飲みバー、テーマを決めたワークショップなど

- 公園でフリーマーケットを開催
- 世代間のマッチングを行う
- スマホ講座ができないか→③と関連
- 空き家の活用ができないか→④と関連

#### ②ボランティアの担い手が少ない

★学生、親世代、定年後などの活躍の場として、ボランティア活動に参加(スマホサポーターなど)

- シニア向けの部活動支援を文化系から始める
- 有償ボランティアを増やす
- ボランティアセンターがつなぎ役になる

#### ③情報が届きにくい

●スマホサポーターを養成する

- ★スマホサロンを開き、若者と高齢者の交流機会にもつなげる
- ★分かりやすいワンストップの相談窓口をつくる
- ★チャットボットなど多様な相談の種類をつくる

#### ④空き家が増えている

●交流の場として空き家を活用する

例えば…

空き家でスマホ交流会や子ども食堂を開催し、支援者と利用者で教え合うなど

- ★防災備蓄を置く
- ★空き家バンクをつくる

#### ★重点的に取り組みたい解決アイデア

- ★つながりを生み出すための交流の場づくり
- ★スマホの使い方を学ぶ機会の充実
- ★ボランティアの担い手の活躍の場の提供
- ★空き家の有効活用

- ★ホットライン(相談窓口)の充実
- ★防災対策の強化
- ★世代間のマッチングに向けた対策の充実

## 2. 北東部地区

### 北東部地区の重要な困りごと・良くしたいこと

①つながりが弱い・交流の場が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の交流、仲間づくりの場や地域の情報が不足している</li> <li>多世代をつなぐ地域づくり、住みやすい地域づくりが必要</li> <li>5年前に比べて、横のつながり、交流ができてきたのはよいが、依然として世代間交流をする場がないなど交流の場が少ない</li> </ul>
②ボランティアの人手不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動、地域活動に人手が不足している</li> </ul>
③困っている人の情報がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこに要援護者がいるのか分からない</li> <li>誰が困っているのか、情報が届いているのか分からない</li> </ul>
④ヤングケアラー、子育て支援の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態が把握できていない</li> <li>ヤングケアラーのみではなく、子育て世代向けの緊急ショートステイや多文化共生の視点など、新たな課題が出てきている</li> </ul>

### ●解決アイデア

●…解決アイデア

★…重点的に取り組みたい解決アイデア を示しています。

#### ①つながりが弱い・交流の場が少ない

●月に1回テーマを決めて交流の場をつくる

●趣味、文化的な関係からの仲間をつくる

例えば…

公的なはつらつサロンの卒業生から、自発的な活動が生まれた例もある

●自主防災組織をつくり、地域のつながりをつくる

★意識的に交流の場を広げていく

★若い人と共に多世代をつなぐ地域をつくる

#### ②ボランティアの人手不足

●子どもの頃からボランティアを経験して、地域と関わる機会をもつ／地域とのつながり方を体験する

#### ③困っている人の情報がない

●挨拶をするなど、まずはできるところから始める

★各団体がつながり情報共有をする

●情報伝達の方法を確認する

#### ④ヤングケアラー、子育て支援の問題

●学校での全数調査を実施し、状況を把握する

●子どもの緊急ショートなども充実する

●ヤングケアラー、多文化、不登校など。新しい課題への支援体制を充実する

★子どもが安心して暮らせて、子育てしやすい地域づくりを進める

### ★重点的に取り組みたい解決アイデア

★意識的に交流の場を広げていく

★若い人と共に多世代をつなぐ地域をつくる

★各団体がつながり情報共有をする

★子どもが安心して暮らせて、子育てしやすい地域づくりを進める

### 3. 中部地区

#### 中部地区の重要な困りごと・良くしたいこと

①集まる場がない・交流が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が出て行ってしまい、世代間の交流ができていない</li> <li>・交流場所がない、少ない</li> </ul>
②自治会がない・地域活動への参加が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会のないところが増えている / ・役員のなり手がいない / ・地域に対する意識が足りない</li> <li>・若い人の地域参加、担い手が少ない / ・地域に対する意識が薄い、つながりが弱い</li> <li>・ご近所の顔を知らない</li> </ul>
③困っている人の把握が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰がどこで困っているか分からない / ・見守りが必要 / ・キーパーソンが必要</li> </ul>
④情報が届きにくい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が少ない / ・困っている人に情報が届いていない</li> <li>・防災の情報が提供してもらえない / ・相談窓口やサービスなどの必要な情報が届きにくい</li> </ul>

#### ●解決アイデア

●…解決アイデア

★…重点的に取り組みたい解決アイデア を示しています。

#### ①集まる場がない・交流が少ない

- 子ども食堂をだれでも食堂として、交流の場として位置付ける
- 若い人が集まれる場所を用意する、きっかけをつくる(子ども食堂などの実施)
- 清掃活動を市全体でやることで、若い人も含めた交流の活性化につなげる
- 空きスペースを活用する

#### ②自治会がない・地域活動への参加が少ない

- 自治会での若手役員の活用や加入促進に向けた取組を行う(チラシ作成など)
- ★挨拶や防災など、小学校と地域で連携して取り組む

#### ③困っている人の把握が難しい

- ご近所のつながりや声かけから始める
- 問題や課題をつなぐキーパーソンをつくる(市民・公的な人両方)
- ★既存ネットワークを活用する
- コミュニティづくり、声かけを行う

#### ④情報が届きにくい(防災面の不安)

- 情報発信の方法を増やす(掲示板、SNS、ポスティング)
- 地域の情報を提供するような会、催し物を行う
- 避難場所の見学会を行い、問題点を把握する

#### ★重点的に取り組みたい解決アイデア

- ★市全体の交流を活性化しよう!
- ★交流の場を一つのゴール(目的)にする
- ★挨拶や防災など、小学校と地域で連携して取り組む

- ★既存ネットワークを活用する  
(地域協力ネットワーク、ほっとネット推進員、ささえあいネットワークなど)

## 4. 南部地区

### 南部地区の重要な困りごと・良くしたいこと

①地域のつながりや交流機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場が少ない / ・地域のつながりが弱い</li> <li>・参加する方と運営・実行する方を選ぶのが難しい</li> <li>・自治会の解散、自治会がなくなってしまった</li> <li>・様々な人との連携が必要</li> </ul>
②情報がうまく届かない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知りたい人に知りたい情報が届いていない</li> <li>・情報がうまく届かない、届いていない</li> </ul>
③買い物が不便	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物、坂道が多い。 / ・交通問題。はなバスルートが通っていない</li> <li>・交通が不便な地域であり、買い物に不便を感じている</li> <li>・買い物問題の解決が必要 / ・買い物支援が必要</li> </ul>
④防犯・防災面のいざというときの対応が不安	—

### ●解決アイデア

●…解決アイデア

★…重点的に取り組みたい解決アイデア を示しています。

#### ①地域のつながりや交流機会が少ない

- ★空き地、公園、団地の敷地内、福祉会館などでマルシェをする
- 学校を中心とした地域づくりをする
- 日頃からの声かけ、見守りを行う

#### ②情報がうまく届かない

- ★若い方に協力してもらい、スマホの使い方を伝える(スマホ教室の実施)
- ★情報がまとまったものをつくるなど、情報が回るコミュニティづくりを考える
- 警察、消防など関係者と連携して、情報が伝わっているかの確認を行う

#### ③買い物が不便

- 商店で買ったものを運んでくれる手伝いをする
- ★移動販売車や買い物バスなどを運行する
- はなバスのルートの見直しを行う

#### ④防犯・防災面のいざというときの対応が不安

- いざというときの「黄色いハンカチ」や、インフラが麻痺したときのために地図づくりを行う
- 公園や子どもが集まる場に防犯カメラを増やす

### ★重点的に取り組みたい解決アイデア

- ★新町福祉会館等を活用したマルシェの実施(買い物支援、防災、相談・活動PRブースなど、すべての拠点とする)
- ★自分の目で見て品物を買いたいというニーズをサポートする取組の実施

- ★若い方に協力してもらい、スマホの使い方を伝える(スマホ教室の実施)
- ★情報がまとまったものをつくるなど、情報が回るコミュニティづくりを考える

## Ⅲ 伊藤副委員長からの講評（要旨）

### 1. 全体的な共通点（課題）

- つながり・交流・集まる場がない(全地区)
  - ・「場所」があっても使いづらい。
  - ・「機会」では、自発的に参加するものと自治会などの強制的に参加するものがある。強制的であるがゆえに、わずらわしさを感じて自治会が減ってきた。一方で、自治会がないことが課題であるという意見が出ている。やはり強制的な集まりも必要なのではないか。
- ボランティア・担い手の不足(3地区)
  - ・「後継者」がいなく、いつも同じ顔が集まっている。
  - ・「若い世代」がなかなか入ってこない。
- 情報が届きにくい(全地区)
  - ・「スマホの操作」では、コロナ禍でICT・デジタル化が進んだ。良い面もあるが、操作は難しい。
  - ・「掲示板の減少」という意見もあった。
  - ・必要な人に必要な情報が届かないという意見や支援を必要としている人がどこにいるか分からない、情報が無いという意見もあった。

これらの課題は全部つながっている。

### 2. 地区ごとの特徴（課題）

他の地区では出ていない特徴的なものについて。

- 北東部  
ヤングケアラーなどの支援、異文化・異言語、不登校など、困っている方がどこにいるのか分からないし、支援しなければいけない。見えない問題に対しての配慮が出ていた。
- 中部・北東部  
困っている人の把握が難しい。具体的には、自治会が少ない、一軒家とマンション間の交流が少ないなどの意見が出ていた。
- 西部  
空き家が増えている、怖い・危ないという心配ごと。しかし、空き家がアイデアのキーにもなっており、ピッチをチャンスにするという意見が出ていた。
- 南部  
買い物が不便、店が少ない、坂が多い、はなバスが通っていない、駅が遠いなど、地理的な問題が出ていた。
- 全地区共通  
市内の交通の便が悪いという意見が出ていた。

### 3. コロナ禍による影響

- ソーシャルディスタンスを守るため、必要なつながりがつなげられなくなった、社会的な孤立が進行した、問題が悪化したことが懸念されている。  
⇒自転車のマナー、見守りが充分にできない、外出しなくなった、連携が取れなくなった。

### 4. 地区懇談会から見た問題～現代の社会問題との関係～

懇談会で話していただいた内容は生活上の困りごとであるため、生活問題という。生活問題は、個人的な問題として捉えられがちである。

#### 【現代の社会問題】

- ▶ 少子高齢化・・・核家族、人間関係の希薄化、労働力不足、老老介護
- ▶ 価値観の多様化・・・非婚、晩婚、家族形態の多様化、多就業
- ▶ 医療技術の発達・・・長寿、長期的医療・介護、出生前診断、命の選別
- ▶ グローバル経済・・・格差の拡大、非正規労働、女性・子どもの貧困



- ▶ 労働力不足・・・外国人労働者の急増、人権侵害、異文化理解、多言語情報
- ▶ 介護問題・・・高齢者虐待、社会的孤立(情報・支援が届かない)、ヤングケアラー
- ▶ 精神衛生問題・・・自殺、ひきこもり、8050問題、いじめ、児童虐待、DV、孤食
- ▶ 大規模災害、国際紛争、温暖化・・・移民、難民、環境破壊、エネルギー、食料問題等々

こういう問題を背景に我々の生活がある。

今回の地区懇談会で出た生活問題は、社会福祉では「社会問題としての生活問題」として捉える。

現代社会を背景に発生する普遍的な問題が、個々人や家族の置かれた状況に応じてそれぞれ個別的に表れる問題である。しかし、背景には社会的な共通した問題がある。

5年前と比べて深刻になったもの、まだ解決していないことを考えてきたが、少子高齢化もグローバル化も進行する一方なので、人間関係の希薄化や貧困の拡大は進行するばかりである。こういった社会問題が解決されなければ、生活課題も進行する一方である。

そのため、意図的かつ社会的な働きかけ(皆さんが取り組まれていること)が必要である。

### 5. 問題解決のために

#### ①地区懇談会からの具体的なアイデア

##### ●多世代交流

スマホサロン、だれでも食堂、自主防災組織など、多機能かつ多世代で交流できる場が必要。単発でやるのではなく、組織化、定例化して強制的な側面を持たせる方が持続的になるので良いのではない。また、横のフラットな人間関係のものが合っていると思う。

##### ●空き地、空き家活用

マルシェを開催し、その中に相談や活動のPRの場を入れる。

移動バス・買い物バスなど、買い物に行けない方にこちらから行くためのアイデア。

### ●情報保障

ICTを活用したアイデアが出されていた。情報をまとめたものを作って回すというのもとても良いアイデアである。たくさん発信されている情報をすべて見るわけにはいかないの、情報発信したものをまとめるのはいいことである。

### ●ネットワーク

人材がないとは言いが、十分なネットワークがある。これを横につなげていく。団体同士や既存のネットワークがつながるなど。

地域福祉のアンケートでは、ほっとネットの周知度が低い。西東京市のネットワークは十分にあるが、認知度が低く・必要な人に知られていない。周知を進めていけると良いと思う。

## ②市民・専門職、行政、それぞれの立場からの関わり

例)だれでも食堂。

- ・市民→実行主体。つながりをつくり、話をしたり、相談をして、精神的に支え合う役割。
- ・行政→場の提供、資金的な援助、掲示板設置の役割。
- ・専門職→行政や市民をつなげていく。スクールカウンセラーやCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が入り、何かあったときに相談できる体制が作れるとよい。

- 誰がやるではなく、みんなでやる。これをソーシャルサポートネットワーク、ソーシャルキャピタルと言う。皆さんがつながることによって、安全な地域ができていく。健康の向上につながる。  
⇒西東京市ではこれが作られているので、強化をしていく段階である。

## ③行政の仕事。地域福祉計画の策定。

新たな視点として示されているもの。

- ①つながりづくり
- ②相談体制づくり
- ③情報発信の工夫
- ④再犯防止と権利擁護(成年後見制度の利用促進含む)の取組  
⇒ここが重点となってくる。
- ⑤地域包括ケアシステム構築の取組

本日いただいた意見を大切にしながら、計画策定を進めていきたい。

また、是非、今回知り合った皆さんがつながり続けてほしい。

### 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に伴う地区懇談会実施報告書 【わかりやすい版】

発行・編集：西東京市健康福祉部地域共生課  
発行年月日：令和5年3月  
〒188-8666 東京都西東京市南町 5-6-13(田無第二庁舎1階)  
電 話 :042-420-2807(直通) FAX :042-420-2896  
E-MAil:fukushisougou@city.nishitokyo.lg.jp